



昭和34年頃のレース風景。当時はランナが主流



「ボートレース発祥地記念館」の競艇殿堂展示

http://boatrace60th.jp

この60周年で、次世代に伝えるべきことを遺しておく事業は、やはり発祥の地である大村が行うことに意義がある。

おりしも大村では、5年ほど前から「ボートレース殿堂」を立ち上げ、ボートレースに貢献してきた数々の名選手たちに光を当ててきた。そのため委員会は毎年開かれている。

またレース場の敷地内には「ボートレース発祥地記念館」を建設して、創設当初から現在までの資料や写真などを、バラエティ豊かに展示している。

そしてこの度は「開設60周年記念顕彰事業」として、『次世代に語り継ぎたいボートレーサー』『世代を超えた夢の対決』『史上最強の個性派レーサー』といったテーマで、全国のファンから広く投票を募ることとなった。もちろんボートレースはこれからもずっと続いていくわけだが、「還暦」をひと区切りとして、ファン目線でこれまで活躍してきたレーサーを振り返っておくことは意義があるだろう。だから投票の対象は総勢4000名以上に上る、引退選手も含めた全レーサーたちだ(*注1)。

その専用サイトは既に10月下旬にオープンし、投票も始まっている(アクセスは上記URL、または表紙のQRコードから)。このサイトは、膨

大な選手の中から、投票選手をたやすく選べるような工夫が凝らされており、たとえば通算勝率や生涯獲得賞金額、優勝回数、1着回数などの項目別にランキングを表示させることが可能だ(*注2)。それも上位選手に限っていないので、通算勝率が250位の選手は誰か、なんてことも知ることができる。また選手名を指定しての検索もでき、姓が「山崎」の選手の中でGI優勝回数が多いのは誰か、といったことさえ調べられる。つまり投票だけでなく広くボートレース好きが楽しめるサイトというわけだ。パソコン、スマホ、携帯電話でもアクセスが可能だが、いろいろ遊んでみるならパソコンまたはスマホ経由が見やすくおすすめです。

なお、投票の参考として、前述のボートレース殿堂入りしている名選手たちのリストを右に掲げておいた。各々がどのような記録を残しているのか、投票サイトで調べてみるのも楽しいのではなかろうか。

今回の投票はボートレースファンが、60年の歴史の証言に自身の声を反映させる絶好の機会だ。ぜひ投票に参加してほしい。

*注1 懲戒処分などを受けたレーサーは除外されている
*注2 選手データは平成24年10月5日現在のもの



投票専用サイト
投票の手順はまず「次世代に語り継ぎたい選手」として男性10名、女性2名を投票。さらにその中から「世代を超えた夢の対決ベスト6」の選手として6名を選出。さらに「史上最強個性派レーサー」として以下のテーマから各1名を投票する。「イン逃げ最強」「差し最強」「テクニック最強」「まくり最強」「まくり差し最強」「スピード最強」。

ボートレース60周年 ～新たな時代へのスタート～

昭和20年代半ばになっても、まだ日本各地では戦後復興に苦しむ自治体が多かった。そこで「地元住民に娯楽や職場を提供しながら財源も確保できる」と導入されたのが「公営競技」で、ボートレースもそのひとつだった。

昭和27年、全国に次々とレース場が作られ、そして選手養成も駆け足で行われる中、4月6日に長崎県大村市の玖島崎で、初のモーターボートによるレースが開催された。全てが手探りで、まさに「嵐の船出」だったという。

大村に続いて、ほどなく津・琵琶湖が開場。そして31年の桐生までではば現在の全国24場体制が整った。

初期の頃はどこの場合も運営が厳しかったが、やがてスター選手の登場やエンジン性能のアップによるレースのスピード化、さらに高度成長の追い風もあって軌道に乗った。

しかしいい時ばかりではなかった。その後、バブル崩壊や長引く不況での売上げ下降にも対処しながら、電話投票やインターネットによる全

国発売の拡充など、様々な状況の変化を乗り越えて、今年60年目を迎えた。そしてこれまでファンの支持があって、地方財政への寄与や社会貢献にも大きく役立ってきた。

ひとくちに60年というが、人間でいえば「還暦」。ここで将来に向けて、初心に戻って新たなスタートを切る時でもある。そのためにも、これまでのボートレース60年を総括しておく必要があるだろう。



昭和27年、記念すべき初開催で優勝した山下勇



大時計も時代によって変遷を見せてきた



初開催で使われたボートとエンジン(現在も使用可)

投票受付中!!

次世代へ語り継ぎたいファン投票

ボートレース誕生60周年事業

ボートレース「殿堂」選手

登番	名前	出身地
13	三津川 要	滋賀
318	倉田 栄一	三重
678	瀬戸 康孝	佐賀
1203	松尾 泰宏	佐賀
1481	北原 友次	岡山
1485	加藤 峻二	埼玉
1488	岡本 義則	福岡
1596	小林 嗣政	山口
1812	長嶺 豊	大阪
1864	安岐 真人	香川
2090	黒明 良光	岡山
2096	中道 善博	徳島
2291	野中 和夫	大阪
2502	松田 雅文	福岡
2672	高山 秀則	宮崎
2945	鈴木 弓子	愛知
3285	植木 通彦	福岡

ボートレース「マイスター」選手

登番	名前	出身地
294	楠和 男	香川
522	古川美千代	三重
637	南 公	京都
693	宮原 和敏	福岡
884	山田 豊志	福岡
899	竹内 虎次	岡山
962	吉田 弘明	愛知
976	貴田 宏一	岡山
1057	本田 泰三	福岡
1126	芹田 信吉	福岡
1199	石川 洋	愛知
1284	長瀬 忠義	広島
1359	北島 英男	佐賀
1370	小澤 成吉	愛知
1395	北川 一成	広島
1460	花田 稔	兵庫
1493	鈴木 文雄	神奈川
1496	浅見 敏夫	埼玉
1531	井上 弘	群馬
1592	松野 寛	静岡
1620	星野 幸正	群馬
1643	武田 章	岡山
1644	吉田 清志	岡山
1670	岩口 昭三	福井
1729	脇辰 雄	兵庫
1738	松本 進	愛知
1781	谷川 宏之	愛知
1845	山本 泰照	岡山
1853	大平 浩士	岡山
1884	柴田 稔	静岡
1910	大森 健二	岡山
1911	加藤 元三	福井
1948	脇山 久夫	佐賀
1950	瀬古 修	三重
1952	村田 瑞穂	三重
1962	井上 利明	大阪
2021	古賀武日児	福岡
2036	倉重 宏明	福岡
2073	村上一行	岡山
2160	立山 一馬	大阪
2170	古川 文雄	佐賀
2260	林 通	岡山
2288	吉田 重義	大阪
2324	栗原孝一郎	埼玉
2325	渡辺 義則	宮崎
2327	向 義行	佐賀
2362	浅香 登	三重
2430	林 貢	岡山